

平成21年度

教育研究開発センター自己評価委員会議事録〈要旨〉

日時：平成21年12月22日（火）17:40～18:20

場所：管理棟2階 BC会議室

出席者：南條委員、福田委員、中村委員、畑埜委員、羽野委員、大江委員（和歌山市教育長）、森田委員（奈良県立医科大学教授）

## 《 議 題 》

平成20年度教育研究開発センター事業実績報告書について

### 【冊子に基づき羽野委員より概要説明】

#### 【主な質疑応答、意見等】

- ・ 実績報告書の作成部数と配布先は（大江委員）。  
→200部作成し、医学系大学79校に配布している。看護系大学（183校）に配布するとなると増刷が必要となる。一度検討したい。（羽野委員）
- ・ 実績報告書を単に送付するだけでは閲覧されることなく、積み上げられることもあるので、簡単なアンケート的なものを同封したらどうか（大江委員）。  
→アンケート的なものを作成し、同封することとする（羽野委員）。
- ・ 配布する時の宛先は役職名だけでなく、氏名を入れた方がより大切に扱われる（大江委員）。
- ・ 実績報告書をすべての高校に送付するのは経費的に難しいと思われるが、熊野高校に看護科があり、関心があると思うので送って欲しい（大江委員）。  
→関わりのある高校にも送付することとする（羽野委員）。
- ・ 背表紙にもタイトルがあると見やすくいい（大江委員）。
- ・ 各事業について、やりっぱなしが多い中で、実績報告書がよくまとめられており、参考にして作成したい（森田委員）。
- ・ スキルラボの利用状況など詳細に記載されているが、専門の管理する人がいるのか（森田委員）。  
→事務職員が申請書に基づいて、その都度整理している（羽野委員）。
- ・ 教育研究開発センターは教育研究審議会の参加にあるが、進級判定を行う組織は。また、カリキュラム改革の決議機関は（森田委員）。  
→進級判定については、別の組織があり、私がその委員長やオブザーバーを兼ねている。  
また、通常、教育関係については、教育研究開発センターが作業部会として資料を作成し、教育研究審議会の議を経て決定されるが、カリキュラムについては、教授会に

において審議・承認される。

- 1年生から6年生までの成績を管理し、解析する組織は（森田委員）。  
→教育研究開発センターで行っている（羽野委員）。
- 本学（奈良医科大）では医学科と看護学科があるが、看護学科はしくみが分かりづらいため、センターの活動も医学科が中心となっている。その中で医学科、看護学科との合同のカリキュラムを立ち上げたいと考えているが、貴学の状況は（森田委員）。  
→医学部、保健看護学部1年生を対象に1科目（ケアマインド教育）のみ通年科目として合同で実施している。セミナー形式で行っており、両学部で話し合う機会が確保でき、意義があると考えます。  
また、スキルスラボ（高度医療人育成センター）が新しくなったので、実習等は協力してやっていきたいと考えている。ワーキンググループも立ち上げたばかり（羽野委員）。
- 物理学においても、医学部生の物理及び高校で物理を選択しなかった医学部生の物理並びに保健看護学部の物理の3種類の講義を行っている。一緒に行うのは困難（中村委員）。
- 保健看護学部の学生が生き生きしているのは、教員からの言葉掛けがあるからだと言っている。（大江委員）  
→言葉かけが過ぎると、学生はストレスがたまることもある、慎重に考えていかなければならない（福田委員）